

利用上の注意

1. 調査の対象(補足)

次のものは調査の対象としない。

(1) 同一港湾内における輸送(指定港間※の輸送は除く。)

※指定港間とは、京浜港については、横浜港、川崎港及び東京港、大阪港については、大阪港及び堺港、関門港については、下関港、門司港、小倉港及び洞海港に区分した港相互間をいい、門司港、小倉港及び洞海港については、従前の港湾区域とする。

(2) 輸送の両端又はいずれか一方が港湾でない区間の輸送

(3) 船舶食料、燃料等の船舶用品の船舶への輸送

(4) 河川又は湖沼のみにおける輸送

2. 公表値の単位

ア. トン数については1,000トン、トンキロについては1,000トンキロ(第1、5、6、10表及び12表を除く)でいずれもメトリックトンである。また、距離についてはキロメートルである。なお、距離はカイリで調査し、1カイリあたり1.852キロメートルで換算した。

イ. 単位未満の端数については四捨五入した。

ウ. 四捨五入により、1,000トン、1,000トンキロ、1,000キロメートル又は1,000リットルに満たない場合は「0」と、またデータの無いものについては「-」と表示した。

3. 計算式

(1) トンキロ 輸送した貨物の重量(トン) × 輸送した距離(キロメートル)

(2) 1トンキロ当り燃料消費量 燃料消費量計(%) ÷ トンキロ

(3) 1キロメートル当り燃料消費量 燃料消費量計(%) ÷ 航海距離(km)

(4) 1トン当り平均輸送キロ トンキロ ÷ 輸送トン数

(5) 輸送効率

「例」

載貨重量トン100トンの船舶が80トンの貨物を20キロメートル離れた港へ運送し、帰路は空船だった場合は、輸送効率40%となる。

$$\frac{80\text{t} \times 20\text{km}}{100\text{t} \times 40\text{km}} \times 100 = \frac{1,600\text{トンキロ}}{4,000\text{トンキロ}} \times 100 = 40\%$$